

平成29年度第4回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成29年10月19日（火）午後2時から午後4時10分
- 2 場 所 沼田市中心公民館 第一講義室
- 3 出席者 委員14名（欠席11名）
アドバイザー 篠田 暢之氏
沼田市 副市長、市民部長、健康福祉部長、経済部長、
都市建設部長、教育部長、管財係長
（事務局：企画課長、企画係長、企画課主事）

4 会議内容

（1）開 会（事務局）

（2）会長あいさつ

<会 長>

本日も議題は多くあり、委員の皆様方には慎重なご審議をお願いしこの会議に与えられた使命と責任を果たして参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

（3）前回の会議結果について

<会 長>

それでは、前回の会議結果について、事務局から説明よろしく。

<事 務 局>

**** 第3回沼田市市民構想会議概要により説明 ****

<会 長>

事務局からの説明がありましたが、ここで質問等があれば遠慮なくお願ひしたい。よろしければ、次に進ませていただきます。

（4）議題

1) 『沼田市公共施設等総合管理計画』の推進に係る意見（案）について

<会 長>

「『沼田市公共施設等総合管理計画』の推進に係る意見（案）について」を議題として、それでは事務局から説明を願ひたいと思います。

<事 務 局>

*** 『沼田市公共施設等総合管理計画』の推進に係る意見（案）について説明***

<委 員>

市長へ提出する意見書等は、この会議で議論したものを委員がまとめ、委員長から市長に提出すると考えていたが、今後もこうした取りまとめ方で進める予定なのかお聞きしたい。

<事 務 局>

今回は、市長から沼田市公共施設等総合管理計画を進めるにあたって市民構想会議

の皆さんからのご意見をお聞きしたいということでお願いした事案でありますので、このような方法で進めさせていただきました。次年度については委員の皆さんから市政に対する提案をしていただくということでございますので、その時には協議していただくテーマを決めていただき、必要があれば委員会を設置し、それぞれで協議していただいたものを委員の皆さんでまとめていくという形でお願いしたいと考えています。

<会 長>

表紙の部分についてお聞きしているが、他にご意見があればお願いしたい。

<委 員>

6頁12の①にある“年次目標を設定した上で、できるだけ速やかに取り組みを進める必要がある”の文言は、表紙の中段にある“しかしながら”の段落の文末に加えるべき重要な文言であるとする。

<事務局>

本日の資料は、たたき台としてお示ししたもので、皆さまからのご意見を反映させていただき、次回に再度、ご検討いただきたいと思いますと考えております。

<会 長>

年次計画を設定しながら進めていくべきであるという貴重なご意見であるが、他にもご意見があればお願いしたい。

<委 員>

先般の市民構想会議で、公共施設等の40年間における削減状態、必要性のあり方について討議したが、この点について先月の区長会理事会の中で提案し、区長会として各市議との意見交換会を開きながら、各公共施設と地元にある施設等の話し合いをしたうえで、意見交換をしながら取り上げていきたいということで話をまとめた。

時期については決定していないが、市の総務課と話を進めながら、年内、若しくは年始初めのほうに、意見交換会を行いたいと考えている。

<会 長>

区長会では議会との協議を重ねながら今後の計画を立てていきたいと考えているとのことであるが、他の団体でこのような取組事例があれば発表を願いたい。

他になければ進めさせていただいて、1頁の①の市民文化系施設についてご意見をお聞きしたい。

<委 員>

集会・文化施設、集会所、集会施設の語句が混在しているが、文書としてまとめる場合には、集会・文化施設に統一すべきではないか。

<会 長>

語句を統一すべきであるというご意見であるが、事務局として意図はあるのか。

<事 務 局>

議論の内容として文化施設というよりは、集会所として住民生活に密着している施設であるということから集会所という表現をさせていただきました。しかし集会・文化施設の方がよいということであれば、変更したいと考えています。

<委 員>

集会所は、住民生活に密接な施設であるということで、看板にも集会所と入っているので、そこに住んでいる人たちに関しては集会所の方が分かりやすい。

集会施設というと施設の規模がより大きくなるイメージがあるので、そのあたりの差が出てくると思うので、行政としては集会・文化施設の表現の方が分かりやすいのかもしれないが、住民に関しては集会所の方が分かりやすいと判断している。

<委 員>

概念としては、集会・文化施設に生活改善センターなども含まれている。

<会 長>

機能的には同じであっても、建設時に使った補助金によって施設の名称が異なってくる。

<委 員>

集会・文化施設として一括りにしてしまうと住民から分かり難くなってしまいうので、集会所と文化施設は別々に説明しながら項目の中に入れていく方がよいと思う。

<会 長>

事務局としては、どう整理していく考えなのか。

<事 務 局>

沼田市公共施設等総合管理計画の28・29頁に施設一覧がありますが、1～6の地区公民館、57・58の勤労者会館や勤労青少年ホームなど、こういったものが含まれるために集会・文化施設という表現になっているものと思われませんが、これまでにいただいたご意見は各町の集会所を想定したものが多かったため、集会所という表現にしているものでございます。

<会 長>

地区公民館や生活改善センターを使って文化祭などを行っている地区もあるので、地区によっては文化的な要素がある一方で、住民が気軽に集まれるという意味での集会所の要素もあるが、他にご意見があればお願いしたい。

<委 員>

ここでの集会所に地区公民館や勤労青少年ホームを含むのか、含まないのかに

より意味が違ってくる。

<事務局>

今回の検討にあたっては施設類型ごとにご意見をいただくこととしており、特に集会・文化施設につきましては、一覧の1から58までの施設に対する総体の意見としてお聞きしているもので、あえて分けてお聞きしているものではございません。また、この集会・文化施設の分類につきましては、国から示された区分に準じる形で分けているものでありますが、いただいたご意見としては、各町の集会所としてのご意見が多かったことから、このような形でまとめさせていただいた経緯もございます。

<委員>

そういうことであれば、集会所でよいと思う。

<会長>

総体としては集会所のご意見が多いように感じるが、必要に応じてこの文言については調整していくということをお願いしたい。他に①の市民文化系施設についてご意見があればお願いしたい。

特になければ②の社会教育系施設についてご意見をお聞かせいただきたい。

<会長>

社会教育系施設は、図書館・博物館をあわせて9施設あるが、これらについて特にご意見がなければ次に進めさせていただく。

それでは次の③のスポーツ・レクリエーション系施設についてご意見をお願いしたい。

<委員>

利南運動広場に野球場、テニスコートが完成した時には、沼田公園内の野球場、テニスコートはどうなるのか。

<事務局>

沼田公園長期整備構想を進めるために、沼田公園内の野球場、テニスコートを（仮称）利南運動広場へ移転させることにしていますので、詳細についてはお答えできませんが、（仮称）利南運動広場に野球場とテニスコートが整備された時には、沼田公園内の野球場、テニスコートの発掘調査が進められることになると思います。

<会長>

他にご意見がなければ、④の学校教育系施設についてご意見をお願いしたい。

<委員>

沼田給食センターの今後の活用方法等が決定していたらお聞かせいただきたい。

<事務局>

担当部課において検討しているところでございます。

<会長>

他になければ進めさせていただく。

⑤の子育て支援施設についてご意見をお聞かせいただきたい。

<会長>

ご意見が出されませんので、次に進めさせていただいて、⑥の保健・福祉施設について、ご意見をお願いしたい。

<委員>

市の庁舎移転と合わせて保健福祉センターにある福祉施設も移転するのか。

<事務局>

現在、平成31年7月に庁舎移転するということで動いております、これまで分庁舎状態であったものを基本的には一か所に集めるということでございますので、原則としてはテラス沼田に移転させるという方向で進めているところでございます。

<会長>

他にあればお願いしたい。

<委員>

耐震化されていない利根支所の方向性についてはどのように検討されるのかお聞かせいただきたい。

<事務局>

利根支所については、耐震基準を満たしていないということがありますので、それを踏まえて、地元の皆さまと協議を進めていくことになると思います。

<委員>

地元との協議とは、区長、観光協会、住民のどの範囲で行う予定か。

<事務局>

現在、支所として使用している施設でありますので、当然、幅広くご意見をお聞きしながらということになるかと思います。

<会長>

他に保健・福祉施設でご意見があればお願いしたい。

特になければ、既に利根支所についてのご意見があったが、⑦の行政系施設についてご意見をお聞かせいただきたい。

<会長>

ご意見が無いようなので、次の⑧の公営住宅についてご意見をお願いしたい。

<会長>

ご意見が無ければ、次の⑨の公園についてご意見をお願いしたい。

<会 長>

ご意見が無いので、次の⑩の供給処理施設についてご意見をお願いしたい。

<会 長>

ご意見が無いので、次の⑪のその他についてご意見をお聞かせいただきたい。

<会 長>

最後に⑫の全体に係る意見についてお願いしたい。

<委 員>

⑤の表現について、全体に係る部分なので単に施設ではなく公共施設の方がよいと考える。また、二行目の表現も「研究を進めることも」ではなく、「研究を進めることが」の表現の方が適切であると考えられるほか、沼田市単独で研究を進めることは現実的には難しいと思うので、「他の地方公共団体と共同して研究を進めることが重要である。」という表現の方がよいと考える。

<会 長>

ご異議が無ければ、「⑤ 今後も継続して使用する公共施設については、新技術の開発等を注視しながら、より安価に更新できるよう他の地方公共団体と共同して研究を進めることが重要である。」の文言に修正させていただくこととする。

それでは全体を通してご意見があればお願いしたい。

<委 員>

沼田市公共施設等総合管理計画の最も重要なテーマは、今後40年間で40%の公共施設を削減することを目標とするところであるが、この意見書(案)ではそこに触れられていないので、もう少し議論が必要であると考えているがいかがか。

<会 長>

「40年で40%の削減目標」の文言を加えるのか議論がもっと必要とのご意見であるが、皆さんからご意見があればお願いしたい。

<会 長>

ご意見が出ないようなので、この部分については会長と事務局で協議して、次の会議でお示しすることとさせていただきたい。

他にご意見があればお願いしたい。

それでは、ここで篠田先生からアドバイザーとしてご意見をお願いしたい。

<アドバイザー>

この市民構想会議では本年度に入り、先ほどもお話がありましたとおり、40%削減を40年かけて完了するという基本的な目標設定がなされています。色々なご意見があろうかと思いますが、しかしその作業工程等の詳細については、他の事業

や予算関連の問題から自ずから優先順位が決まっていくものと想像しております。

ただ、そうした場合でも削減する視点から言えば、可能な限り市政運営の透明性を担保していく必要性がこれまで以上に求められると考えます。

そのため、この市民構想会議の委員の皆さんのご意見を、市民の代表意見と理解し、その透明性を堅持して進めることが暗黙のうちに期待されていると思います。

40%を削減する作業を今後40年かけて進めるという沼田市の規模縮小（ダウンサイジング）は、人口減少による条件変化を見据えて問題提起されている作業であることはご承知の通りかと思えます。

今後一層厳しくなる税収減や各種補助金等の助成金の縮減が、従来通りの各種施設管理運営の維持を困難にする危機感からの問題提起であることは明らかです。従来ならば、庁内で進められていったに違いない“街づくり”を、市民的視点からその代表である委員の皆さんによって、縮減の方向性を指し示して頂くこの試みは、評価すべき在り方であると考えます。

問題になるのはマイナスするという作業からついて回る印象が、何故か“先細り”や“暗い未来”という言葉と同義語的に感受されている事実がありますが、私はむしろこうした機会をプラスに転じる事が出来る好機と考えています。

そのひとつの歴史的な事例が、今から2400年ほど前の古代ギリシャのアテネに見て取ることが出来るからです。古代都市国家アテネの人口はおよそ2400人で、そのうちの半数が奴隷でしたが、この事実から考えますとおよそ1200人規模の少数の人口でも、豊かな都市生活が可能であったばかりでなく、人口減が街の活力の低下を招く直接的な要因とはなりえないことが明白だからです。

むしろ現代の世界都市である東京の人口の1200万人からは、古代ギリシャの時代に輩出したような、歴史的な豊かな人材が輩出するのかどうか？ 未来の文明や文化的な基礎となるような偉業を達成できる人材がどれほどいるか？ と言えはなはだ疑問です。時代背景や社会的な状況が違い過ぎて、比較にはならないとお感じになる方もおられるかもしれませんが、逆説的にいえば、人口の多さが社会を豊かにするかどうか？お考えいただければ、そんな事はないと理解して頂けるかとおもいます。

このような歴史から見えてくる事実は、むしろ『市民意識の高さ』にあり、高い『市民意識の合意形成』がなされていた「優れた都市（ポリス）運営」にあったことは確かです。このような視点に立てば、沼田市に課されている問題は『意識の共有化』であり、それが可能な限り進められれば、むしろ人口減少という社会変化を逆説的に、またとない好機と捉えることもでき、それほど心配する必要がないのではないかと私は思います。

大切なことは、委員の皆さんも様々な思いがあつてこの市民構想会議にお集まりになられていると思いますので、このような機会を活用して情報を受ける場と捉えるだけでなく、より良い沼田市構築のためのご意見を大いに表明されてご議論される事が重要ではないかと思ひます。

未来に夢をはせ楽しく語りながら、このまちの暮らしは楽しいといえるための議論を積極的にした方が良いように感じます。この市民構想会議は市議会でもありませんし、市の最終意思決定機関でもありませんので、これからこのまちで楽しく暮らすには、どうしたら良いのか？ 多彩な議論が待ち望まれていると考えます。

特に公募委員さんにおかれては、本当は言いたいことが沢山あると思ひますので、日ごろ考えておられるお考えの発表の場として、それらを素材に議論が期待されていると思ひます。そういう意味では議論がまだ十分ではないと思ひましたので、今後そうした方向で、ご議論が進むような運営を期待したいと感じつつ、拝聴させていただきました。

<会 長>

それでは、皆さまからいただいた貴重なご意見を踏まえながら事務局と調整し、次回の会議において最終的な整理を行った上で、市長に提出することとしたいのでよろしくお願ひしたい。

2) 『共創と協働によるまちづくり』に係る提言（市政への反映状況）について

<会 長>

それでは、次の『共創と協働によるまちづくり』に係る提言（市政への反映状況）についてを議題とさせていただきます。

これは昨年度の市民構想会議から市長へ提出した提言書がその後どのように市政に反映されたのかということをもとめた報告書ということなので、事務局から説明願いたい。

<事 務 局>

*** 『共創と協働によるまちづくり』に係る提言（市政への反映状況）について説明 ***

<会 長>

事務局の説明が終わったが、ご質問、ご意見があればお願いしたい。

<委 員>

これは1番から順番に確認していくのか、それとも何頁の何処という確認をしているのか。

<事 務 局>

この資料は、前回の市民構想会議の委員さんから提出していただいた提言書が、その後どのように市政に反映されているのかを報告するようにとのご意見をいただいていたことから、この度、調査を行い、資料としてまとめた報告書でございますので、ここでご協議いただきたいというものではありません。あくまで報告という形でお示しさせていただいたものでございます。

<委 員>

事務局の考えに反すると思うが、先ほど篠田先生からもっと自由に議論をというお話があったので、もう遅いかもしれないが意見を言わせていただきたい。

4頁の子どもの食育について、福井県小浜市などでは、いわゆるキッズキッチンを盛んにやっていて、幼稚園の頃から市を挙げて食育についての取り組みしていると聞いており、もしもこうした取り組みを沼田でもできるのであれば、後に出てくる地産地消にもつながってくると考えている。

もうひとつは、利根沼田産のお米を給食に使うために、3か所ある給食センターを1か所に統合しましょうということだが、これも福井県内での取り組みで、地元のを学校給食に使用するにあたり生産者と生徒とのふれあいということを非常に大切にしている。給食の時間に今日の野菜は農家の誰々さんがつくったということを校内放送しているとのことである。そうすると農家の人も感激して、それならもっと良いものを作ろうということで盛り上がり、両方WIN-WINの関係でいけると聞いているので、そういうような形を沼田市でも参考にしてはどうか？と思う。そ

ういう良いところを沼田市内の学校給食でも盛り込めれば良いと考えている。

<会 長>

この件について、教育部長からお願いしたい。

<教育部長>

貴重なご意見をいただきましたが、おそらくお話の事例は給食センターではなく、単独校方式での給食で、それであれば可能なお話だと思います。給食センターですと、かなりの量になりますので、安定した量の確保が一つの課題になります。これから利根町に新しい施設をつくりますけども、単独校方式ではないため、なかなか生産者とのふれあいというのは難しいと考えています。当然、現在でも利根沼田産の食材を可能な限り多く使うようにしており、地産地消ということが大きな目標になっていますので、その方針は曲げてはいませんが、ご意見にありました農家とのふれあいについては単独校方式でないと難しいと思います。

<委 員>

難しいことは分かるが、給食の時間に「今日の給食には〇〇町産の〇〇を使っています」の放送をするなどを含めて努力をするという事は重要なことではないかと思えます。ぜひ、検討をお願いしたい。

<委 員>

提言3の「文化の薫り高いまちづくり」については、市としてもっと力を注ぐ分野であり、まずは篠田先生がおっしゃるように当地域では何が特色なのかを考えるべきである。

人口減少で地域の元気がなくなるから縮小傾向にしなければということではなく、薫り高い文化や歴史がこの利根沼田には厳然として残っているので、これらにもっと光を当てて時系列的に一目瞭然として分かるような形で整理することで、有効活用できる施設も出てくると考えられる。

そうした取組みを進めていくことが、これからの沼田を光り輝かすことにもなると考える。

<委 員>

公共施設の削減よりも前に、少子化にならないように人をもっと増やすような取組みを行政では考えられないのか。例えば外から若者を呼び寄せて人口が増えるような、人口が減るのを黙認するのではなくて、計画を立てて人口減少を5万人、或いは4万人で止めて維持していくなどの方策があればお聞かせいただきたい。

<会 長>

全庁的な課題であると思うが、子ども課を所管している健康福祉部長からお願いしたい。

<健康福祉部長>

本市においても結婚支援などを実施しているところですが、少子化対策、移住施策ともに決め手となる有効な手立てがない状況にあるのが、悩ましい現実です。

人口減少問題は全庁的な取り組みが必要であると思いますので、今後も関係課と連携しながら取り組みを進めていきたいと考えています。もし、良いお考えがあればご教示ご示唆頂ければと思います。

<委員>

昨年度の大河ドラマ「真田丸」に関して、沼田といえば真田丸と全国的に認知されるようになりました。人口減少で苦慮していることをお話しすると、沼田には豊かな自然環境があって、子育て環境としては最適であると県外の方から指摘を頂いた。そうした方々と上手に調整できれば、ただ人口が減るだけでなく人口増加に転じられる可能性もあるので、そういった考え方を何らかの方法で伝えていけないかと考えている。

また、前回も各施策の実施主体と実施時期ということで、まちなかの観光施設の問題とか、実施期間や事業計画について教えていただいたが、街なかは街なかでよいとしても、全体を見れば人口が減ってきているので、そういうところでどうにか施策を考えていただきたい。

<委員>

人口を増やすということについて、もしも自分が移住するならと考えてみると、家など住むところがあるということもあるが、周囲に助けてくれる人がいるということが一番有難いことであり、そうした仕組みが大事だと思っている。

今は国の施策として女性も働いて社会参画するという傾向があるが、本当は働かない方が子育てはしやすく、子育てがしやすければ、もっと子どもを産んで育てようという気持ちにもなる。

自分の経験からも働きながら子どもを育てることは、とても大変なことなので、移住してきた方を応援する組織を設置して、健康面、育児面など担当する分野を決めてサポートする仕組みを考えてはどうか。

勿論、沼田は住みよい場所だということをしてPRすることは良いとしても、具体的に、どんな点で、何が住みやすいのかということを知る形で示した方が、外からくる人にはわかりやすく、移住はしやすいと思う。

<会長>

沼田市では都市間交流を積極的に行っているが、経済部長からお答えいただきたい。

<経済部長>

移住政策については5年ほど前から国でも力を入れていまして、実際には県単位で進めているところが多く、人口減少で地の利が悪いところを中心になっていると思います。

群馬県では一昨年から東京に出張所を設けて、そこに移住専門官を置いていますから、本市でもそこをお願いして、様々な取り組みを進めているほか、本市からも職員1名を派遣して、観光PRが主な業務になりますが情報収集や、移住担当にもなってもらっています。

実際にこちらに来ていただいた実例も出始めていますが、先ほどのご意見にありましたとおり、面倒を見てくれる人の存在というのがとても重要になっている一方で、やはり市の職員では限界があり、地域の方々のお力をお借りして、その中に溶け込んでいただくということも考えております。

色々なところで取り上げられていますが、「移住コンシェルジュ」といった施策展開ができないか検討しております。本日の議題にも取り上げられている総合戦略の中にも盛り込んでいるところでございます。

また、先ほどのご意見のありました食育の関係でございますが、共同調理場方式では難しいという教育委員会のお話がありましたが、経済部でも農協と連携して生産から子供たちに関わってもらい、それが食べられるような取り組みをしましょうということで、5月の連休にトウモロコシや大根を植えたり、草刈りをさせたり、年間3回ほど実施させていただきながら、一緒に食事を作って食べるということを進めています。

鱒の掴み取りなど、大人が指導しながら、子どもにナイフを使わせ鱒をその場で絞めて内臓まで出させると、「いただきます」の意味が分ると子どもに言われました。「命がなくなって、自分のところにその恩恵が食べ物として姿を変えて目の前に来るわけですから、命をいただきます！なんですよ」との、農協の女性職員からも説明があつて食育という点でも効果的に思えました。

自分で作ったものを自分で食べてみると、農家の方がどれだけ苦労しているのかも分かるということを実体験としてやらせてみようということで、そのような取り組みを現在やっております。それを移住施策と絡めています。東京から来るお客さんもその中に入っていて、地域の人と馴染んで頂くように意図する中でその取り組みをやらせていただいております。

東京に沼田の野菜を持って行って売るといこともしていますが、最初は市の職員が担当していました。（野菜の）評価が高くて良いのですが、例えばフキを市内で売るように東京へ持って行っても、東京の人たちは、これをどう処理して食材にするか調理の仕方が分からないために買っていただけない。家庭でフキを調理でき

ない現実があることを知り、今後はこうした問題が他の食材でも起こり得ると危惧しています。つまりフキを工場加工・調理することはあっても、やがて東京の各家庭ではフキを調理することはなくなるとも考えられるからです。現在、南郷の曲屋にお願いして東京の人向けの料理教室を開くなどの取り組みを行っています。

なかなかそういった取り組みが市内では完結しないので、今はインターネットを使った食育図鑑というものを農林課で作らせていただいて、地元の野菜を使った料理の作り方だとか農家の苦労話だとかをインターネット上で公開し、それを学校で活用していただくということで対応させていただいております。

総合的な話で恐縮ですが、移住、食育など色々なことを複合的な施策として展開していかなければという認識は持っていますが、その事業効果はすぐに現れるものではないと思いますので、今後も継続していきたいと考えております。

<会 長>

空き家対策等も絡んでくると思うが、全庁を挙げて連携しながら進めていただき、少しでも少子化や人口減少に対応していただきたい。

<委 員>

提言11の有害鳥獣対策・耕作放棄地対策について、取り組み内容に何も記載されていないが、これは何もしていないということか。

<事 務 局>

当然、有害鳥獣対策・耕作放棄地対策は積極的にやらせていただいておりますが、提言にあるような耕作放棄地対策と移住・定住対策を組み合わせたり、排出権取引制度の取り組みは現在のところ行っていないということで空欄になっているものです。

<委 員>

提言12の男女共同参画について、沼田においても女性が活躍できる場を創ることが沼田の活性化につながると考えている。具体的に今年度は堀廻町で女性区長が誕生しているほか、女性が活躍している組織等もお聞きしているので、市でも女性が輝けるような職場、社会の支援をしていただきたい。

一方では、現在、働く女性が苦労している現実があることも見逃せません。例えば朝7時15分に家を出て、帰宅できるのは毎日8時であるというような現実は何とも気の毒です。

連日残業で毎日8時、9時まで仕事をやっていて、心身ともに疲れている女性もおられ、これなどは女性を単なる労働力増強という事になっており問題です。新聞やニュースでは女性の過労死が報じられていますが、男女平等の概念のもとに女性も男性と同じように働けという風潮が多分にあり、そのしわ寄せが女性に大きく負

担となつてのしかかっているのではないかと思う。

昔は逆に女性は5時から5時半には帰って、男は残って仕事をする。すると女性は早く帰って習い事だとか、色々なことができて、心に豊かさもあった。給料には差があったが、逆に言えばその時の方が女性に対する思いやりがあったのではないかと感じている。

男女で同じにやっけていく中でうまく評価されている人は、それはそれで立派なことであるが、逆に下積みのまま働いている人も沢山いるわけで、男女共同参画の中では行き過ぎた男女平等を、ある程度是正し女性が働きやすい社会へと工夫をこらす知恵が必要であると感じているので、こうした社会現象に対して行政としてどのように取り組むのかお聞かせいただきたい。

<会 長>

それでは、市民部長からお答えいただきたい。

<市民部長>

只今のご意見にありましたように堀廻町の区長さんの件につきましても、先ごろハピネスという男女共同参画情報誌のような形で私どもが出していますが、その中で紹介をさせていただいて、それから6月には大崎麻子さんというジェンダー問題を研究されている方ですが、これらに対する講演会の内容などもご報告させていただきながら、意識をひとつずつもっていただきたいということは現在考えて進めているところでございます。

実際問題、ジェンダーという男女の性差の問題と社会参加という問題と、特に先ほど話題になりました人口減少社会を迎えて労働力としての女性のあり方など、色々な問題が同時進行で進んだために、まだまだ全体の仕組みが追いついていないという側面も多分にあると思います。私どもは勿論、皆さまとご相談させていただきながら具体的な施策を検討していきたいと考えていますので、ご指摘、ご意見等、今後もよろしく願いいたします。

<委 員>

堀廻町の区長さんは大変情熱をもって一生懸命やっておられ、ご自分でも満足していらっしゃると思いますが、そういう方は男女共同参画の中で輝いている人だと思います。こういう方とは異なる、懸命に生きる為に仕事を続けている女性もおられるケースにも、何らかの温かい手が差し伸べられないか？という想いです。

私がスポットライトを当てる必要があると考えているのは、男女平等だから仕事を頑張れと、朝から夜まで、毎日2～3時間も残業しているという現実もあるので。そういった現実が男女共同参画の趣旨に沿うものなのか、その悪い例が最近の過労死問題であると考えています。

過労死問題はこれまで男性の問題だと思われてきましたが、あれほどになる前に、男女平等という概念の歪んだところにスポットライトを当てて本当の形の男女共同参画、男性も女性も輝いて活躍する社会にするような取り組みが社会的にも必要ではないかと思えますし、沼田市ではそうした問題解決の先進市であって欲しいと思えます。

<経済部長>

性差の問題で働き方そのものが見直されるべき時期が来ていて、これは女性だから、男性だからということではなくて、先ほども労災の話がありましたが報道では女性がというところにスポットライトが当てられています、自殺率では男性の方が圧倒的に多くて、仕事の原因というケースも多くなっています。

そういう意味では男性だから、女性だからというよりも、やはり働き方としてどうするのかということが議論され、また、男性の家庭進出ということで男性も家庭に積極的に関わらしましょうという社会的な動きもありますので、これは行政側から考え方としてこういう風にしましょうというよりは、社会全体の流れの中で、こうすべきだという、正に市民構想会議のような場所で、色々な議論が為されることで、それがご指摘のように新たな沼田の魅力付けになるのかもしれない。

<委員>

先ほど移住してきた方の支援という話があったが、起業塾で移住してきた方の助けになることをしたいという方がいたので、それが事業としてなのか分からないが、そうした人を活用していくことも必要だと思う。

もう一つは働き方改革で、都内の企業では既に副業が解禁になってきているので都内の一流企業や大手企業で働いている人に週末は沼田で働いてもらう。仕事のやり方としてテレワーク、インターネット上で使う仕事であれば、現地にいなくてもできる仕事が増えている中で、沼田で午前中に仕事していただいて、午後は副業として、例えば広告関係の仕事であれば、広告関係のアドバイスをもらいたい市内の企業を何社か回って収入を得る。

実際に大手広告代理店に依頼してしまうと莫大なお金がかかってしまうが、既に持っている経験やスキルの活用方法として、こちらでお金を払って来てもらう、尚且つ、木曜日に沼田に来てもらって週末は沼田で過ごしていただいて月曜日には都内に帰っていただく、そして将来的には沼田で暮らしていただきたいということを踏まえて企業家とのつながりや、地域の魅力も遊びながら体験してもらうという取り組みを進めているので、そうしたところにも市として協力や支援として新しいことを始めてもらえれば有難いので検討をお願いしたい。

<経済部長>

昨年の起業塾は約3分の1が市外の方で、「起業するなら沼田で」という触れ込みもありましたので、皆さん受け入れをさせていただきましたが、実際に起業に結び付くというのは難しく、その方たちの中に、先ほどのお話にありましたとおり、移住してきた方たちの受け皿になりたいという方がいました。

しかし、これはビジネスモデルになり難いものですから、今はその人たちのネットワークづくりをされていると思います。そして色々な起業家と起業家を結びつけて新しい産業おこしがしたいということです。これから芽が出ることを楽しみにしています。

また、先ほどお話した移住コンシェルジュ、受け入れるときの手助けをする人の設置に向けても努力をしてみたいと考えています。人口減少問題は移住対策だけで、全てが解決するものではありませんので、どこの自治体でも同じような状況になっていると思います。

しかし、最近の傾向として移住を受け入れる受け手側でも人を選ぶというのが現在の風潮となっており、誰でもいいから来てくださいというやり方や進め方ではなくなりつつあります。〇〇な、こういう人であれば来てくださいということで受け手が移住者を選ぶ時代になりつつありますので、沼田流の移住推進の仕方と申しますか、現在考えている補助金で移住してくれる方を募ることは止めようということで考えています。

今後は、移住してくれた人に100万円差上げます、土地を只にします、建物を安くしますなどを売り文句にして来ていただくというよりは、少し時間はかかると思いますが、しっかりと沼田のことを好きになってから来ていただき地域に根差していただくことがまず重要でしょうということで取り組みを進めています。

去年は仕事を持って移住してくれてきた人には少し助成しましたが、新幹線通勤の補助金を創設させていただきました。東京で仕事を続けたまま、こちらに移住していただける方に、通勤手当の支援をさせていただくこととしました。現在のところは1家族ですが、実際にこちらに移住してきていただいている方もいらっしゃいますので、こういうこともPRの題材にしていきたいと思っています。

移住と仕事はセットですからそういった取り組みも進めていきたいと考えていますし、テラス沼田が開設された折には起業家のためのインキュベーション・オフィスを用意しながら、新しく起業される方たちの対応ができないかということも考えております。

<委員>

移住についてはテレビ等でも盛んにやっていて、外から人を呼び寄せるためには大きなお金が必要になると思うが、視点を変えて、市外から人を連れてくるよりも、

現在、市内に住む女性が3人目、4人目を産みやすいよう財政的・人的に支援した方が人口減少対策としては現実的であると考えている。

ママ友と呼ばれる子育て世代の方たちも本当は3人目を産みたいけれども、経済的に無理だと、仕事を始めてしまって年も離れてしまって3人目は無理だというご意見も多く聞く。そういったお母さんたちに、もう一人産めるかもしれないという可能性を模索していただく方策は何かないのか考えていただきたい。

もうひとつは、9月末頃に滝坂を下校中の小学生が、駅の方から上がってきた高校生くらいの男の子に暴行されてしまうという悲しい事件があって、これを聞いた時に、こんな怖いまちで子どもを一人で下校させるのは怖いと思うので、起きてしまったことに対する対策、例えば暗い時間に滝坂を降りていくと途中から真っ暗になってしまって、滝坂の階段を下りたあたりの横断歩道には信号機も予告灯もないので高校生が横断できなくて困っている場面に遭遇する時があるが、滝坂の急な下り坂で急には止まれないのでいつも悔しい思いをしている。高校生とはいっても、まだ子どもなので彼らの通学路も守っていただきたいと思っている。

食育に関して、先ほどの3人目を考えているお母さんたちが、安心して3人目4人目を育てられる環境になったときには、家庭にいる時間が多くなり、食に関してかけられる時間が増えると考えられるので、上の1人目、2人目のお子さんに対する食育・食の充実にも力を注げるようになると思うのでご検討をお願いしたい。

<会 長>

都市環境の整備について都市建設部長からお願いしたい。

<都市建設部長>

只今、通学路の整備ということで、ご指摘の場所も当然、我々も把握していますが、全市的には例えば白沢地区では熊が出るので、熊に遭わないように藪の中の坂道の上り口と降り口に鐘が付いているところがあったりします。勿論、一般の方が歩いている人通りの多い環状線などは街灯なども整備されていますけども、整備されていないところも沢山ありますので、その辺りは緊急性等を協議しながら順次進めているところでございます。

<会 長>

あとは下校時の暴力事件についてですが。

<委 員>

現実的な対策としては防犯カメラの設置だとか、かなり細かい情報が記録されるので、例えば駅前に防犯カメラが何か所か設置してあれば、犯人を特定することにもつながると考えられる。

<会 長>

防犯パトロールで見回りを行っている方たちもいらっしゃるので、そういった部分にも目配せしていただきたいというような投げかけをしていった方が良いと思う。それでは他にご意見が無ければ次の議題へ進ませていただく。

3) 地方創生加速化交付金の効果検証について

<会 長>

それでは(3)の「地方創生加速化交付金の効果検証について」を議題とさせていただきます。事務局から説明願いたい。

<事 務 局>

この加速化交付金は地方自治体が実施する地方版総合戦略に基づく先駆的な取り組みについて国が交付金により支援するもので、本市では2つの事業を実施しています。

ひとつ目は資料の1・2頁の「安心でおいしい!ぬまたの特産品推進事業」で、農産物のブランド化、六次産業化を推進することを目的とした事業でございます。

ふたつ目は3・4頁の「大河ドラマ『真田丸』を活用した地域活性化事業」で、沼田公園内観光案内所の運営、大河ドラマ「真田丸」を活用した観光振興、沼田城址の発掘調査を実施したものでございます。

これらの事業については担当課において自己評価を行っており、それぞれ2・4頁の「今後の事業展開方針」にありますとおり、両事業とも①の事業の継続(計画のとおり事業を継続する)という判定をしていますが、本交付金事業については総合戦略推進会議として位置付けられているこの市民構想会議においてご意見をいただき、総合戦略のKPIの達成に本事業が有効であったか、または、有効とは言えないの何れかの評価をいただくことになっています。つきましては1事業ごとに事業内容等について説明させていただきますので、その後、ご意見及び評価をいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

<会 長>

国の交付金を活用した外部評価ということで、この市民構想会議が評価を行うということなのでよろしく願いたい。

それでは1事業ごとに事務局から説明願いたい。

<事 務 局>

***** 効果検証シートにより説明 *****

<会 長>

事務局からの説明が終わったが、外部評価をこの市民構想会議が担うということなのでご意見と評価をお願いしたい。

まず、「安心でおいしい!ぬまたの特産品推進事業」からお願いしたい。

<委 員>

細かい内容なので事業内容についてもう少し説明いただきたい。

<経済部長>

「安心でおいしい！ぬまたの特産品推進事業」につきましては、六次産業化、ブランド化という主に農林課が所管している事業について、国からの交付金事業として組み立てをさせていただいたものでございます。

去年は真田丸ということもありまして、『兵糧丸』というお菓子を作らせていただきましたが、兵糧丸はこの交付金を活用させていただきました。当初は6店舗、途中から7店舗、地元の食材を使っていたいただいたお土産物ということで、当然、観光客が増えるということ想定していましたので、農業者と実際に地元のお菓子屋さんとの協働により製品を開発していただいて2万個ほど売り上げをさせていただいたということで、それなりの効果はあったと思いますし、先ほどお話しした食育図鑑（ネット上の食育のためのホームページ）の立ち上げにもこの交付金を活用させていただいております。

また、商談会に参加するなど、おかげさまで40数件の認証をさせていただきましたので、そういうものを首都圏に持ち込みまして、色々なところでPRさせていただくための費用として使わせていただいたものでございます。

<委員>

兵糧丸というと元々が持ち運びできる保存食のイメージだが、これを生菓子として作ったところがあると聞いているがどうなのか。

<経済部長>

沼田市の食材を使ってお土産品としてお買い求めいただくということをコンセプトにしてくださいということでございましたから、生菓子だから駄目だということにはしていませんでした。兵糧丸のイメージからすると干菓子のような日持ちのするものではないというご指摘もいただきましたが、基本的にはご自身のお店での販売しかしないということでもありましたので、そのまま対応させていただいたところでございます。

<会長>

他にあればお願いしたい。なければ有効であったかなかったか評価してまいりたいがご意見をお願いしたい。

<委員>

非常に有効であったと判断する。

<会長>

非常に有効であったとのご意見があったが、他にご意見があればお願いしたい。他にご意見が無いようなので、本事業については、①のKPI達成に有効であったという評価にさせていただくのでよろしくお願いしたい。

次に進めさせていただいて「大河ドラマ『真田丸』を活用した地域活性化事業」についてのご意見、評価をお願いしたい。

<委 員>

加速化交付金の補助率は。

<事務局>

当初の補助対象経費に関しては100%となっています。

<委 員>

沼田の認知度が全国で上がったことは評価できるが、観光客数は上田市ほどではなかった。

<経済部長>

何もないところからの17万人なので大きな成果があったと考えています。

<委 員>

利根町に関しては、去年は大型温泉旅館の宿泊者数がやや増加しているものの、これだけの大型イベントがありながら、旧沼田市街地以外に経済的な波及効果は少なかったように感じられるので、もっと早い時点で連携して全市的に観光を盛り上げられれば良かったと思う。

<会 長>

それでは、この事業についても効果があったということでよろしいか。特にご意見がないようなので、①のKPI達成に有効であったという評価にさせていただくのでよろしくをお願いしたい。

4) 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

<会 長>

次の「沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」を議題とさせていただきますので事務局から説明願いたい。

<事務局>

*** 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(進行管理)について説明 ***

<会 長>

目標が1から4まであって、その目標ごとに施策が分かれているが、まず目標1についてご意見をお聞かせいただきたい。

<委 員>

全体に共通することだがK P Iが分かり難い。

例えば2頁の地域事業者での新規雇用者数のK P Iが1, 800人になっているが、これは平成31年度末までに1, 800人になれば良いということなのか。

<経済部長>

目標値については平成31年度末までの達成目標になります。

また、ご質問は平成27年度時点で既に31年度末の目標値を達成しているのではないかということだと思いますが、これは就業者数の減少度合い等を見ている中で平成28年度が1, 555人と減少していますがそういったものを推計して行って平成31年度までに1, 800人を目標値としましょうということだと思います。

<委 員>

1, 800人というのは新規の話か。

<経済部長>

新規です。

<委 員>

平成27年度で新規の方が1, 915人、平成28年度で1, 555人いてこれを更新していくと毎年積み上がっていくのか。

<経済部長>

新規就労者ですから年度ごとの人数になります。

K P I自体は31年度までの達成目標というのは大筋の達成目標でありますので全体で31年度1, 800人を目指すということになっていますが、先ほど申し上げましたとおり、総体的には人口減少で子どもの数が減っている状況でありますので、新規就労者数も子どもの数に比例して減らざるを得なくなってきましたから、現状が高くても、1, 800人という目標が多いのか少ないのか、27年度には1, 800人を達成しているわけですから、4年後に1, 800人が低い数値なのかと

ということもありますが、ここ自体は当然努力を目標に含めてですが外部から入ってくる人間よりは、今いる子供たちをここで雇用するということが大前提になりますので1,800人で目標を設定させていただいているということでございます。

<委員>

全体的にKPIの表示が分かり難くて、次の地域産業情報のメディア掲載数24回は平成31年度までに24回を目指すということか。

<経済部長>

24回まで底上げをしていきたいということです。

<委員>

3頁の林業、木材・木製品製造業者での新規雇用者数が100人となっているが、平成26年度から平成28年度までは0人ということになるのか。

<経済部長>

0人ということになります。

<委員>

取り組みの効果が全くなかったということか。

そうなると取組内容自体が問われることになるのではないか。

<経済部長>

これも林業関係の募集状況、募集が無ければ採用もないという状況になってしまいますから、このKPIが本当に達成できるのかということについては疑問が残ると思います。

<委員>

新規雇用年齢が多いのは18歳か。

<経済部長>

沼田市の全体的な就労環境からいうと18歳がピークになります。また、大学を卒業される方、つまり22歳以降でこちらに来られる方が次のピークになりますが数字としては減少しますし、やはり皆さんからご指摘いただいているように就職先がないと。次のピークが30歳前後で、これは家庭をお持ちになって地元に戻られる方が多いだろうと分析していますが、そういった形になります。

<委員>

林業関係というのは全く興味がなかったということか。

<経済部長>

興味がなかったというよりも、雇用する側の問題点もあると思います。

<委員>

何とかしてあげようというのが取り組みなので、やはり取り組み内容を考えない

と、このまま0人が続くばかりで、急に100人ということはありませんことだと思ふ。

<経済部長>

KPIの設定自体が正しかったのかどうかという検証はしなければならないと思ふし、新たな雇用創出という意味ではCLT工場の誘致ですとか設置ですとかそういうものに向けては商工会議所の中でも協議をさせていただいている段階です。

<委員>

7頁の新規就農者の確保育成のところ、「農業後継者・新規就農者の増加」のKPIが年間10人となっていて、実績として平成26年度は5人、平成27年度は3人、平成28年度は7人となっていて、下の平成28年度の取り組み内容のところでは継続給付3名でそれぞれ150万円を支出しているということになっているが、これを見ると平成26年度から平成28年度までの新規就農者が15人いる中で3名だけに補助金が交付されているということは12人が辞めたということか。

<経済部長>

補助制度を活用して新規就農される方もいますし、例えば二代目として入られて新規就農される方もいらっしゃいますので、その方は補助金の対象にならないほか、補助金には年齢制限もありますので、若い方であれば補助金を受けられますけども、一定年齢以上の方は補助金を受けられないという区別もありますので、全ての方が補助金を受けているわけではないというご理解をお願いします。

<委員>

新規就農者はすぐに離農してしまう方も多いので、それを踏まえないで目標を設定しても、意図していることと乖離してしまうことになるので、こうした目標設定は如何なものかと考えるがどうか。

<経済部長>

ご意見いただきました部分については十分に検討させていただきましたが、ひとつは技術的な問題として、新規就農者数をカウントすることは比較的容易ですが、最終的に離農していく人のことを考えて全体数が減少していくというKPIの取り方が難しいということがあって、これくらいは確保しましょうというKPIを設定させていただきました。

もうひとつは農家の専門化が進んでいますので、専門農家の数ではどうかという検討もさせていただきましたが、一般的に言うと新規就農の方をどれだけ確保できるのかということが、地域の魅力付けだとか就農意欲に関係するだろうということで、できるだけ多くの方に就農していただけるような環境づくりが大事であるとい

うことでK P Iはこのような設定をさせていただきました。

<委 員>

しかし農林水産省のデータを見ても、必ず新規就農者と離農者、そしてどうなっているのかというデータを出しているのです、そうすべきだと考えている。

<経済部長>

データの把握しているのです、全体の農家人口、特に専業農家が一番問題になると思いますから、その部分について全く検討していいということではないですが、このような形で出させていただいたということでございます。

<会 長>

他にご意見があればお願いしたい。

<委 員>

進行管理の意図が分からないのもう一度説明願いたい。

<事務局>

先ほどもご説明申し上げましたが、総合戦略は5か年の計画でございます。それぞれ設定させていただいた目標値に対して、昨年度までの進捗状況の実績値と取組内容を更新させていただきましたので、4つの基本目標に対して取り組みが適正であるのか、見直しの必要性の有無などについてご意見をいただきたいというものでございます。

<委 員>

こうした取り組みをしたらもっと良くなるなどの意見は別の話になるのか。

<事務局>

そうしたご意見も含めてお聞かせいただきたいということございまして、見直しによって、より効果が得られるということについてもご意見をいただいて、それぞれの担当部署で見直しを行うこととなります。

<会 長>

他にご意見がなければお約束の時間もあるので、本日はここまでとして、残りは次回の検討としたいがよろしいか。

ご異議がないようなので、次回も引き続きの検討とさせていただくのでよろしく願いたい。

それでは、以上で第4回市民構想会議を閉じさせていただく。